

起きて半畳寝て一畳、天下とっても二合半・・・・惜しいことをしたものだ

「起きて半畳寝て一畳、天下取っても二合半」の説明から。インターネットをみればいろいろ書いてあって、「この二合半とは米か酒か」というのがあって、なんぼ物を知らないと言っても、ちょっとなあ。あきれてしまった。人間、起きていたら半畳分、寝ても一畳あれば事足りる。(これを勘違いして、自分の部屋と比較してワタシの部屋はもう少し広いです、と書いてきた女の子がいて、末法の世の中じゃ、と思った。) 天下を取っても、食べることができる米の量は1日2合半でしかない。つまり、欲を出してあれもこれも自分のものにしようとして、たとえば豪邸に住んでも、金をいくら儲けてもたかの知れたものだ、と言う意味。(たとえば、天皇陛下は金でできた茶碗で金の箸で朝ごはんを食べられるわけではない。) 出典は織田信長という説があり、これにも笑ってしまった。誰が書いているのだろう。この言葉が富貴や地位、さらには物質的な欲望に対する批判的で冷笑的な考えをしめすものなら、茶碗に執念を燃やしたり天下取りに汲々としていた織田信長が、こんな言葉を発するはずがない。

どうも韓詩外伝のことらしい。

一方で、単なる貧乏人の僻みだという考えもあるわけで。

小生は**分を知る**ということが好きで、相応の生活ができればいいと思っている。ガキに贅沢を教える必要はないじゃないか。

もともとこんなことで紙数を費やすつもりではなかった。**惜しいことをしたものだ**を書くつもりだったのである。

他人が稼いだ財産の使い方をどうこう言うつもりはさらさらない。それこそ余計なお世話で、イチローが東日本大震災に1億円寄付したからといって、その他の人にもそれを強要する気もないし、当然ながらその権利もない。

民主党の初代総理の鳩山某のご母堂が亡くなられた。毎月数千万円もの大金を兄弟に渡していたというから、まあ大金持ち。デキの悪い子ほど可愛いというが、鳩山一郎からみてこいつは三代目。つまりはバカ息子。日米関係を云々

は既に書いた。本文の目的は、鳩山安子さんが「惜しいことをしたものだ」と言っているのである。

なんのことか？ つまり、それだけの金銭的余裕があるなら、なぜ東日本大震災に対して「鳩山基金」のようなものを設立して、被災者の救済に役立つようなことをしなかったのだろう。……他人の財産の使い方はどうこう言う気はないが、惜しいことをしたものだ、という思いは拭えない。歴史に残る快挙になったかもしれないのになあ。それよりもバカ息子が大事だったのだろうな。笹川良一さんが、今もって名が残っているのは、日本財団を設立、日本の陽の当たらない部分にも援助をし、また世界中に寄付をし、あらゆる方面に援助を惜しまなかったからではないか。千載一遇の機会を逸した、と思う。……ただし、他人の財産。あれこれ言うことはないけれど。

2013. 04. 20.